

第1章 みどりを取り巻く社会動向の変化

令和2(2020)年3月の現行計画の策定以降、新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけに、都市における身近な公園や緑地は、緑豊かな環境で健康的な生活に欠かせない活動を楽しめる貴重なオープンスペースとして、その価値が再認識されました。また、急激な気候変動や生物多様性の損失等の課題に社会が直面する中、その解決手段として、多様な機能をもつ緑地への期待がより一層高まっています。

社会状況やみどりを取り巻く動向に様々な変化があることを踏まえ、中間評価の基礎情報として、国及び東京都の制度や方針、文京区の上位・関連・下位計画における方針等を整理しました。

(1) 関連する国の方針等

方針等	主な内容
都市緑地法改正 令和 6(2024)年 2 月	・国による都市緑地に関する基本方針の策定、都道府県による都市緑地に関する広域計画の策定を位置付け。国の基本方針に基づくとともに、当該広域計画を勘案して、市区町村は緑の基本計画を定める。 ・緑地の機能の維持増進を図るために行う再生・整備を法的に位置付け 等
緑の基本方針 令和 6(2024)年 12 月	・全体目標として、『将来的な都市のあるべき姿「人と自然が共生し、環境への負荷が小さく、Well-being が実感できる緑豊かな都市」』を提示 ・緑の基本計画において、「環境への負荷が小さいカーボンニュートラル都市」「人と自然が共生するネイチャーポジティブを実現した都市」「Well-being が実感できる水と緑豊かな都市」の3つの都市の実現に向けた取組及び関連する指標等を位置づけることを促す 等
緑の基本計画×グリーン インフラガイドライン(案) 令和 6(2024)年 6 月	緑の基本計画に、グリーンインフラ(地域課題の解決に向け、戦略的計画に基づき、多様な機能が発揮される緑)の考え方をどのように取り入れればよいか示したもの 等
グリーンインフラ推進戦略 2023 令和 5(2023)年 9 月	・グリーンインフラで目指す姿として、自然と共生する社会を提示 ・官民両輪での、あらゆる分野・場面におけるグリーンインフラのビルトインを目指す方向性を提示 等
グリーンインフラ実践ガイド 令和 5(2023)年 10 月	グリーンインフラの基本的な考え方や主な取組、まちづくり・公園・道路・河川・港湾・海岸などの様々な場面における実践のポイントを解説 等
都市公園新時代 ～公園が活きる、人がつながる、まちが変わる～ 令和 4(2022)年 10 月	新たな時代の都市公園が目指す姿として、区民、事業者等の参画を促し、パートナーシップで公園マネジメントを行うことで、多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける方向性を提示 等
生物多様性国家戦略 2023-2030 令和 5(2023)年 3 月	生物多様性と自然資本を守り、活用し、2030 年のネイチャーポジティブ(自然再興)を目指す方向性を提示 等
環境教育等の推進に関する基本的な方針 令和 6(2024)年 5 月	持続可能な社会への変革に向けた、環境保全活動、環境教育、協働取組の方向性を提示 等
流域治水関連法施行 令和 3(2021)年 11 月	降雨量の増大等に対して、ハード整備の加速化・充実等に加えて、あらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」の実効性を高める方向性を提示 等

(2) 関連する東京都の方針等

方針等	主な内容
「未来の東京」戦略 version up 2024 令和 6(2024)年 1 月	・目指す 2040 年代の東京の姿である「ビジョン」を提示 ・ビジョンを実現する 2030 年に向けた「戦略」等により、成長と成熟が両立した未来の東京を実現していく方向性を提示 ・戦略 13「水と緑溢れる東京戦略」において、「東京グリーンビズ」の推進を位置付け
東京グリーンビズ「東京都の緑の取組 Ver.3」 令和 7(2025)年 1 月	100 年先を見据え、東京の緑(グリーン)を、都民をはじめ様々な主体との協働(ビズ)により、価値を高め、継承していく考え方の下、「まもる」取組、「活かす」取組、「育てる」取組を提示
東京都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 令和 3(2021)年 3 月	「未来の東京」戦略ビジョンで示した方向性や都市づくりのグランドデザインを踏まえ、広域的な一体性を確保するうえで配慮すべき事項について定めるもの
都市計画公園・緑地の整備方針※ ¹ 令和 2(2020)年 7 月	都市計画公園・緑地の計画的な整備促進と、整備効果の早期実現に向けた取組の方針を明らかにするもの
緑確保の総合的な方針※ ² 令和 2(2020)年 7 月	特に減少傾向にある民有地の既存の緑やあらゆる都市空間への緑化の課題に対し、都と区市町村とが合同で、都市計画を基本としたまちづくりの取り組みの方向性を明らかにし、計画的に東京の緑を確保していく方向性を提示
都市づくりのグランドデザイン 平成 29(2017)年 9 月	目指すべき東京の都市の姿と、その実現に向けた都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示す行政計画
東京における土地利用に関する基本方針について 平成 31(2019)年 2 月	都市づくりのグランドデザインの具体化に向けて、どのように今後の土地利用制度を運用していくべきか方向性を提示
東京が新たに進めるみどりの取組 令和元(2019)年 5 月	都市づくりのグランドデザインで示す都市像の実現に向け、今ある貴重な緑を守るとともに、あらゆる場所に新たな緑を創出していくため、東京が進める緑の取組のまとめ

※¹ 都と区市町村が合同で策定したもの

※² 都と区市町村が合同で策定したもの



図の出典：東京グリーンビズ「東京都の緑の取組 Ver.3」より引用

(3) 文京区の上位・関連・下位計画における方針等

方針等	主な内容
「文の京」総合戦略 令和 6(2024)年 3 月	・行政需要の変化を的確に捉えた区政運営を進めていくため、重要性・緊急性が高い優先課題を明らかにした「重点化計画」として計画期間(4 年間)で取り組むべき主要課題を掲げており、財政的な裏付けを伴う区の最上位計画 ・主要課題として、「誰もが暮らしやすいまちのバリアフリー化の推進」、「安全・安心で快適な公園等の整備」、「地球温暖化対策の総合的な取組」、「災害に強い都市基盤の整備」等を提示
文京区都市マスタープラン 2024 令和 6(2024)年 9 月	・長期的な視点にたつて、まちの将来像や土地利用・都市施設などの整備方針を明らかにし、都市計画の方針及びまちづくりのガイドラインとしての役割を果たすもの ・まちづくりの目標(～協働で次世代に引き継ぐ～安全で快適な魅力あふれるまちづくり)を提示 ・まちづくりの目標等を実現するための部門別のまちづくり方針として、「緑と水のまちづくり方針」等を提示
文京区地球温暖化対策 地域推進計画 令和 2(2020)年 3 月	・国・東京都における近年の地球温暖化対策の動向を踏まえ、2020 年に策定した計画に、さらなる取組推進のため計画の見直しを行ったもの ・区が目指すべき将来の社会の姿として、クールアース文京都市ビジョン(まなび・くらし・しごとの中でみんなでとりくむ脱炭素のまち～クールシティ文京～を掲げ、従来の「温室効果ガスの削減目標」の大幅な強化に加え、新たに「再生可能エネルギー導入目標」を定めたもの
文京区生物多様性地域 戦略 平成 31(2019)年 3 月	・生物多様性基本法に基づく計画であるとともに、文京区環境基本計画における自然共生分野の個別計画として位置付け ・文京区が目指す生物多様性都市ビジョンとして、「生きもの、ひと、くらしがつながり 豊かな文化を育むまち」を掲げ、4 つの基本目標と関連する施策及び方向性を定めたもの
文京区環境基本計画 平成 29(2017)年 3 月	・平成 11 年に策定した、区における環境に関する全ての施策の基本的な方向を示す文京区環境基本計画を環境変化に伴い改定したもの ・国の環境基本法及び環境基本計画の精神を踏まえ、「文京区基本構想」に掲げる将来都市像の実現を、環境等の側面から担う計画 ・環境共生都市ビジョン(ひとがつなげる文の京の誇れる“あした”～環境共生都市ぶんきょう～)を掲げ、5 分野ごとの 5 つの基本目標に向けた施策を示したもの
文京区景観計画 平成 25(2013)年 10 月	・景観法に基づく文京区独自の景観計画で、区の特性に応じた景観形成基準を定めたもの ・文京区基本構想に掲げる分野別の将来像や、文京区都市マスタープランに示す方針を実現するための、「まちづくりに係わる個別部門計画」のひとつ
文京区みどりの保護条例 昭和 50(1975)年 4 月	みどりの保護と育成を通じて豊かな自然環境を確保することを目的とし、樹木の保存や公共施設の緑化、届出事項などを定めたもの
文京区公園再整備基本 計画 令和 4(2022)年 3 月	「みどりの基本計画」の考え方にに基づき、今後の公園再整備及び維持管理運営の在り方を示したもの